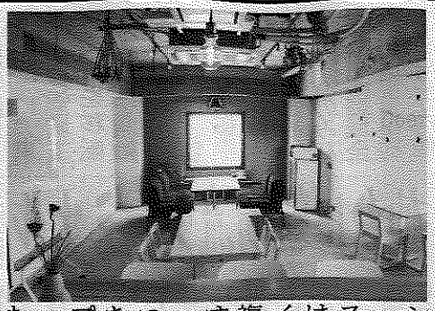
昼はシェアオフィス、夜はバー

REBRANDINGが逗子でオープン

REBRANDING（ドゥアー）」をオープンしたと発表した。

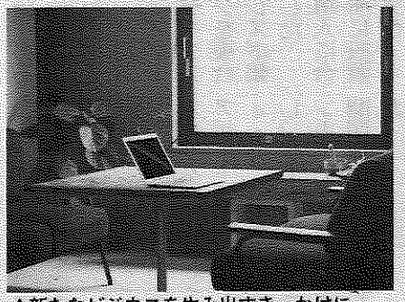
同オフィスは、昼はシェアオフィス（コワーキングスペース）、夜はバーになるタイムシェア型の複合店舗。実行する人（Doer）が集まり、つながる場にしたいとのコンセプトから、Doerと名付けたもの。起業家・フリーランス・クリエイター・複業家・店舗経営者をはじめとした「実行する人」がつどい、つながり、逗子・葉山から新たなビジネスを生み出すきっかけづくりを演出していく。



▶落ち着いた雰囲気の施設内

神奈川県によると、2010年国勢調査・職業等基本集計結果で15歳以上の専門的・技術的職業従事者は逗子市が県内3位となる21％と多く、経営者も16・6％と全体の6位と高率なことから実現したもの。

アクセスは、JR横須賀線「逗子」駅から徒歩1分となっている。



▲新たなビジネスを生み出すきっかけに

車中泊旅行者をマッチング

駐車場収益化の新サービス

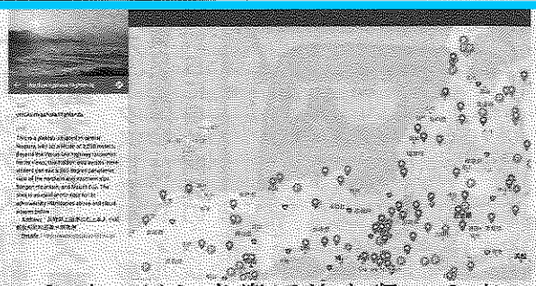
カースティ

カースティ（東京都新宿区）は、9月27日に駐車場・空き地を貸して収益化したいホストと、快適に車中泊・テント泊をして、車旅をもっと楽しみたい旅行者を繋ぐ、日本初のシェアリングサービス「Carstay（カースティ）」を開始すると発表した。

このサービスは、旅行者が安心して車中泊・テント泊出来る場所を提供するために、宿泊可能な駐車場や空き地を持つホストとマッチングができるシェアリングサービス。訪日外国人にも車旅を楽しんでもらうために、多言語でのサービス提供をする。

機能は、主に①Carstayマップ、②ホスト施設の検索、③駐車・体験のオンライン予約決済、④予約情報の管理、⑤ホスト施設や地域の魅力を伝えるウェブメディアの5つ。現在は、ナビゲーションが可能なCarstayマップの一部を公開し、約500箇所の車旅にオススメのスポットを日本語・英語の2言語で紹介している。

サービスのリリースは2019年1月を予定している。



▶2言語に対応する

「渋谷ストリーム」に高校生と起業家が学び合う場

花形

花形（京都市中京区）が運営する関西発のAO・推薦入試専門塾「aoi」は10月下旬、東京都渋谷区にある渋谷ストリームで「高校生と起業家が共に学び合う、渋谷クランドバレーコラーニングスペース」を開設する。同社は今年度に渋谷へ進出。それからの反響は大きく、3カ月でおよそ30人の生徒が集った。渋谷だからできることを突き詰め、起業家やフリーランスなど、会員は学生世代の人々を活用する想いから渋谷ストリームへ出店を決めた。

▶進路に役立つ施設

学生はリアルな社会で働く大人とコミュニケーションを取ることにより、志望する将来像はより高まり、起業家やフリーランスなることがメリットとして挙げられる。ニーズを掴みつつ、彼ら・彼女からの率直な質問に答えることが、自身の事業を改めて見直す機会になる。また、進学後や卒業後、ともに事業をしていく接点となるチャンスでもあることがメリットとして挙げられる。

古民家ツーリズム活性化に向け包括連携協定

全国古民家再生協会／JTB

JTB（東京都品川区）と全国古民家再生協会（東京都港区）は、9月21日に古民家ツーリズムの活性化を主眼として、包括連携協定を締結した。

両者は6つの取り組みを行っていく。①古民家を有効に利用する、②滞在型・体験型のプログラムを開発する、③地域コミュニティとの交流を喚起する、④古民家再生地域の観光行政・DMOと連携強化する、⑤古民家再生地域の広報・PRを行う、⑥その他、古民家ツーリズムの活性化に関することを行う。

政府が示す「明日の日本を支える観光ビジョン」でも提唱されているように、国内旅行消費額の拡大やインバウンド4000万人時代を見据えた観光先進国への進化には、地方創生の礎ともなる観光資源のさらなる魅力アップと、地域の関係人口・交流人口の拡大が不可欠と考えられている。その一方で、地域の人々との交流促進につながる国内ロングステイを含む滞在型観光においては、滞在施設の不足・施設情報の不足（ロングステイ財団調査統計2017）等の課題がある。

現在全国には約100万戸の空き家があり、そのうち木造住宅の約1割程度が古民家と推定されている。観光施設としての古民家は、滞在経験そのものが貴重な観光資源となるかけがえの無い有形資産となっている。古民家はまた、短期滞在から長期滞在まで幅広い期間の利用も可能で、日本人はもちろん外国人観光客にとっても、思い通りの時間を過ごしながら日本の文化や日常生活に触れる機会を提供する。そして、地域でのロングステイは経済効果を生みだすばかりでなく、地域の人々との交流を育み、新しい交流文化を創出するきっかけとなると見込んでいる。

レジデンストーキョーと京王グループ

民泊事業で連携

レジデンストーキョー（東京都渋谷区）と、京王グループの京王電鉄（東京都多摩市）、京王不動産（東京都渋谷区）は、9月25日に同グループが推進する新しい宿泊・滞在スタイル「トラベラーズ・アパートメント（民泊）プロジェクトで、同社はマンスリーマンションの運営で培ったノウハウを活用し、中長期の宿泊滞在される利用客向けに運営・予約業務の一部を担当する。

この計画は、「カリオ蒲田」で得たノウハウや実績を生かし、京王沿線の笹塚でさらに進化させたもの。「カリオ笹塚」では、地域交流の拠点として活用できるラウンジを設け、宿泊者・滞在者の交流だけでなく、商店街や地域住民との交流の場、情報の相互発信の場として、利用者の満足度向上と地域消費の促進、街の活性化につなげる。そして、将来的には「街全体をひとつのホテルとして」新しい滞在スタイルの提供を目指す。